

連合 2015 平和ヒロシマ集会



「ビリョクだけどもリョクじゃない！」

～全国から2千2百人を超える仲間が結集～



平和広島集会に参加された連合福島派遣団の皆さん

1945年8月6日、熱線と爆風、恐るべき放射線により一瞬にして14万人余りの尊い命が奪われた、人類初の原子爆弾が広島に投下されてから、今年で節目となる70年目を迎えた。

核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を求める、「連合2015 平和ヒロシマ集会」は8月5日（水）、広島市上野学園ホールを会場に、全国から連合組合員など2,245名が参加し開催された。連合福島からは、派遣団として田村地区連合副議長の吉田 実さんを団長に8名が参加した。

集会では、連合神津事務局長が主催者を代表して「5

年に一度開かれる核不拡散条約（NPT）再検討会議が本年、ニューヨークで開催されたが、核兵器保有国と非保有国との対立により、最終文書が採択されないまま閉幕となった。さらに、世界の指導者に広島、長崎への訪問を促すといった、日本国民の切なる願いも受け入れられなかった。連合は、世界で唯一の被爆国のナショナルセンターとして、これまで以上に、核兵器の悲惨さと非人道性を広く世界の仲間へ訴えていく。」と挨拶した。

さらに、戦後・被爆70年となる今回は、次代を担う若者からのメッセージとして、4名の高校生平和大使から「ビリ



平和の折鶴を献納する吉田団長

ョクだけどもリョクじゃない！」と、核兵器廃絶への想いをつないでいく決意が述べられた。最後に参加者全員で「平和アピール」を採択し、「原爆を許すまじ」を合唱して平和ヒロシマ集会は閉会となった。

連合福島派遣団一行は平和集会に参加し、連合福島男女平等推進委員会が作成した平和の折鶴を吉田団長が代表して献納し、その後、記念式典や原爆ドーム、広島平和記念資料館（原爆資料館）等を視察した。派遣団一行は、戦後70年の節目に立って、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現のための運動を、職場・地域で取組む決意を新たに、平和行動を終えた。



原爆ドームを後ろに広島平和記念公園にて